



“製品ファミリのアーキテクチャ品質”

ソフトウェアシンポジウム2010  
WG7 ポジションペーパー

株式会社エクスマーション  
山内 和幸



<http://www.exmotion.co.jp/>

# 背景（１）

- 「ソフトウェア・プロダクトライン（SPL）」というキーワードが登場してから、はや10年が過ぎようとしている
- この間、欧米では、劇的なソフトウェアの開発生産性／品質の向上が達成されたという数多くの適用事例が報告されている
- しかしながら、世界に名高い日本の製造業においては、その適用事例はごくわずかしか報告されていない
- コンサルタントとして様々なお客様からお話を伺うと、以下の点について悩まれている方が多い
  - SPLへ移行するのにどれだけの投資が必要か？
  - SPLの効果を如何にして示すのか？
  - 移行後、再利用資産の品質劣化を如何にして防ぐのか？
- ただし、これらの疑問に答えるために必要となる定量的なデータは計測されておらず、設計情報すら可視化されていないことが多い

## 背景（2）

---

- SPLでは、“PLアーキテクチャ”がその中心的な役割を果たす
  - PL開発の成否を握るキーファクタ
- アーキテクチャの品質は、PL開発への移行、およびその後の維持においても、極めて大きな影響力をもつ
  - PL開発への移行においては、既存資産のアーキテクチャの品質により、移行に必要な工数が大きく異なる
  - PL開発の維持・進化においては、PLアーキテクチャの品質の劣化を早期に検出・是正することが重要である
- 従って、SPLに適したアーキテクチャ品質を定義し、計測することが、先に提示した疑問に対する答えに通じるのではないかと考える

# ポジション

---

- 本WGでは、PLアーキテクチャの品質を適切に測る（いつ／何を／どのように測る）ことで、以下の3項目が実現できないかを、参加者と共に議論したい
  1. SPLへの移行の容易性（または難易度）の定義
  2. SPLの効果の例示
  3. PLアーキテクチャの劣化の検出
    - 上記項目はそれぞれ、過去→現在、現在、現在→未来と時間軸に沿って長期的にPL開発を実現するために、効果的な指標を提示しうるのではないかと期待している
- また、本WGのコーディネータとして、上記内容に拘らず、参加者の関心事に柔軟に対応していきたい